

8407 今日、十月最後の日曜日も、・・・

今日、十月最後の日曜日も、昨日のつづきの、さわやかな秋晴れだ。日本列島をおおっている大きな高気圧は、東へ抜けていきつつある。明日から、天気はくんだり坂になるだろう。都心のターミナル駅から、私鉄の急行で30分、急行の停車駅としては七つ目の駅で降り、そこからひと駅だけ、彼女は各駅停車でひきかえしてきた。

片岡義男『海岸道路』

[許容訳例]

Today, the last Sunday of October, was another fine, refreshing autumn day like yesterday. The extensive high pressure zone overlying the Japanese archipelago was passing off to the east. The fine weather would probably break tomorrow. Half an hour from a midtown terminal on the private express as far as the seventh express stop; there she got off and came one station back by local train.

[翻訳例]

Today, the last Sunday in October, was another fine, fresh autumn day like yesterday. The major high pressure zone extending over the Japanese archipelago was in process of moving off to the east. Tomorrow, for sure, the weather would start to deteriorate. On the express of a non-governmental line, it took thirty minutes from a downtown terminal to the seventh stop by the express, where she alighted and took a local train one station back again.

■今日、十月最後の日曜日も、昨日のつづきの、さわやかな秋晴れだ。(8407)

◆中間話法（時の名詞と時制の問題）

「今日、・・・昨日の・・・明日から天気は・・・だろう」までの文は主人公(she)の、言うなれば心の呟きがそのまま地の文として使われていると考えることができます。これをうまく訳すには工夫がいきます。引用符が付いていませんが、英語的にはこれは直接話法の文ということになります。最初の文は、簡単にすると「今日も昨日と同様秋晴れだ」ですから、直接話法にすると“Today is a fine Autumn day like yesterday.”となります。引用符を外すためには間接話法にしなければなりません。そうすると、文法書的には today→that day: yesterday→the day before などと変えなければなりませんし、時制も変えなければなりません。そうすると That day was a fine Autumn day like the day before.となります。しかし、これではどうしてもあまりにも日本語の感じとかけ離れてしまうような気がします。つまり、時間的に過去のことになりすぎてしまう感じなのです。この場合は、Today was…という言い方が許されるかどうか疑問なのですが、中間話法（イエスベルセンの言う「描出話法 (represented speech)」のテクニックとして例外的に Today; yesterday などをもそのまま使ってもいいような気がします。そうすることによって、筆者のその時の気持がそのまま伝わるよう

な感じになると思います。中間話法は心の複雑さを描く現代の小説では当たり前のように使われています。ただ、英語が習得言語の場合、やはり言葉を職業とするネイティブ（国語の先生とか文筆家とか）によるチェックが必要のように思われます。

★「十月最後の日曜日」は the last Sunday in [of] October です。

★「・・・も、昨日のつづきの」は like だけでも意味はわかりますが、another... like yesterday [the day before] とすれば、日本語の表現に近くなると思います。

★「さわやかな」は結構難しい。辞書には refreshing; fresh; crisp などが出ていますが、refresh という言葉は、たとえば疲れているような時(fresh でない時) コカコーラなど飲んで refresh するという感じで使いますから、ここでは使えません。crisp には冷たさが必要です。それが「さわやか」というのならそれでもいいでしょう。私がこの言葉に出会ったのは、確か A. A. ミルンの随筆で「聖ミカエル祭（9月29日）の頃になるとセロリがおいしくなる」という文章で、セロリをかむ音を crisp と表現していたように覚えています。ここでは fresh が一番いいと思います。

★「秋晴れ」は a fine [beautiful] Autumn day [weather] ですが、「さわやかな秋晴れ」は形容詞の順序を変えて a fine, fresh Autumn day とした方が英語的でいいと思います。

■日本列島をおおっている大きな高気圧は、東へ抜けていきつつある。(8407)

★「日本列島」は the Japanese archipelago です。

★「おおっている」→「おおう」は cover; overlie; extend over などが使えます。

★「大きな高気圧」は the extensive high pressure zone [area] です。日本語には「圏」は表出されていませんが、英語では zone[area]を伴うので「大きな」は large は可能ですが big はちょっと合わないと思います。こういう場合よく extensive が使われます。他に major もいいでしょう。

★「東へ抜けていく」は pass to the east でも意味はわかるので間違いではありませんが、「抜けていく」という感じを出すためには pass[move] off to the east とした方がいいと思います。

★「(抜けていきつつある)」は「進行形(be passing)」でもいいですが、「・・・しつつある」という continuity の意味を、日本語と同じようにちょっと強調したい場合には be in process of...の形を使うといいです。この be in process of という表現は普通の日常会話でもよく使われます。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（日本列島をおおっている大きな高気圧）

「日本列島をおおっている大きな高気圧」は「連体修飾節（日本列島をおおっている）＋不定代名詞的体言（大きな高気圧）」ですから、英語では「名詞(the extensive high pressure zone [area])＋関係詞節(which extends over the Japanese archipelago)」で対応することが出来ますが、ここは関係詞節にしないで、日常的によく使われる表現の分詞(extending over...)にした方がいいです。

■明日から、天気はくんだり坂になるだろう。(8407)

- ★「明日から」の「から」は from ではなく、start to…を使えばいいでしょう。
- ★「天気は・・・」は the (fine) weather でしょう。
- ★「くだり坂になる」は break (up)の他に deteriorate か使えますが、文字通りに go downhill でもかまいません。
- ★「・・・になるだろう」は will を使うなら中間話法で would にしますが、これは単に未来を示しているだけで「だろう」という日本語に含まれている予想の感じは全然入っていません。こういう場合には probably とか、no doubt とか for sure という言葉が必要です。特に、for sure という表現は、人が言ったり書いたりしたことを report する場合によく使います。
- 都心のターミナル駅から、私鉄の急行で30分、急行の停車駅としては七つ目の駅で降り、そこからひと駅だけ、彼女は各駅停車でひきかえしてきた。(8407)
- ★「都心の」は midtown でもかまいませんが、普通は downtown です。
- ★「ターミナル駅」は terminal station とする必要はありません。terminal だけで「ターミナル駅」になります。なお、「都心」と言っているので、「私鉄のターミナル駅」は一つではありませんから、定冠詞ではなく不定冠詞を付けます。
- ★「私鉄」ですが、「私鉄」という言葉は非常に日本的な表現で、「国鉄」と同様に日常会話でよく出てきますが、欧米では、少なくとも日常会話ではこういう区別は意識せず、すべて「電車・鉄道」ですので、英語にする場合、これらの言葉は非常に苦労します。辞書には a private railroad [英 railway] などと出ていますが、英米人には通用しません。private という「貸し切りの・個人専用の」という意味合いになってしまうからです。一応、an express of non-governmental line としておきますが、決していい訳とは言えません。というのは、ここでは「私鉄の急行」という言葉を使うことによって郊外という背景まで浮かんでくるように意図されているように感じられるのですが、non-governmental line にはそのイメージはなく、こういう言葉の使い方は残念ながら翻訳不可能と言わざるを得ません。
- ★「私鉄の急行で」は on an express of non-governmental line とします。
- ★「急行の停車駅としては七つ目の駅」は the seventh express stop とか the seventh stop by the express でしょう。
- ★「降りる」は get off とか、あるいは alight も使えます。
- ★「各駅停車」は辞書には a local train と出ています。これはアメリカ英語で、イギリス英語では a stopping train と言います。
- ★「そこからひと駅だけ彼女はひきかえしてきた」は she came one station back by local train とか、あるいは she took a local train one station[stop] back again とかでしょう。again を加えたのは自分が今通ってきたところをもう一度通るという感じです。

#### ●文技巧

「都心のターミナル駅から、私鉄の急行で30分、急行の停車駅としては七つ目の駅で降り、そこからひと駅だけ、彼女は各駅停車でひきかえしてきた。」の難しさは「私鉄の急行で30分」という文章の切り方です。まず日本語の情報の順序を生かして英語に訳すとする

と Half an hour from a downtown terminal on an express of non-governmental line as far as the seventh express stop she got off there…[; there she got off …]ですが、自然の英語とは言いがたい文です。こういう場合は「私鉄の急行で 30 分」を「私鉄の急行に 30 分乗って」と言い換え、多少前後の順序を入れ替えて、英語として普通の文章に変えざるを得ません。つまり、On an express of a non-governmental line it took thirty minutes from a downtown terminal to the seventh stop by the express, and there she got off and…です。…, and there she…は関係詞を使って、…, where she…と言い換えることができます。なお、it took thirty minutes…のところは it took her thirty minutes…とは出来ませんが、she took thirty minutes…とは言えません。she took thirty minutes…と言えるのは、she のやり方、責任が問題になるような場合、たとえば、She took thirty minutes to do the job.のような場合です。